human

No250

2013／2

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために

「干支の置物（蛇年）」

救急指定・労災指定病院 さくら総合病院 愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 （0587）95-6711（代）

老人保健施設 さくら荘 愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 （0587）95-6722

訪問看護ステーション あすかビレッジ 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10（太郎と花子内） （0587）95-8623

ヘルパーステーション あすかビレッジ 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10（太郎と花子内） （0587）95-8026

居宅介護支援事業所 あすかビレッジ 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10（太郎と花子内） （0587）95-8027

デイケアセンター 御嶽 愛知県丹羽郡大口町新宮1-129（さくら総合病院2F） （080）5294-5728

有料老人ホーム 太郎と花子 愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 （0587）95-0111

http://www.ijinkai.or.jp

E-mail:info@ijinkai.or.jp

ふつ切れた死生観
―ヘミングウェイの「老人と海」の老人の場合―（続）

大森澄雄

老人は八十五日目の朝まだ暗いうちに、一人で舟を漕ぎ出して沖に向かった。昼ごろに魚のいそうな場所に舟をとめ、〈きょうは八十五日目だ。どうあっても大漁にしなければならん〉と景気づけをする。そのために、彼は〈ここらでひと眠りしよう〉と腹を決め、〈綱を足の指の先に巻きつけて〉、魚が食いついた時には、〈すぐ目のさめる〉ようにしておく、という周到さである。

一丁度そのころ、魚が引いた。老人はその力に〈信じられぬほどの重みを感じた〉。そして彼には、それが〈とほうもない大魚であるという察し〉がつく。大物の食いついたのはよいが、〈ほかの餌はまだ水中にあっ〉ても、〈一人ではどう手のほどこしようがない〉とか、〈綱を舟に縛りつけられないこともないが、そうしたら、魚のやつ、綱を切って逃げてしまうだろう〉とかと、思いなやみながら、〈「あの子がいたらなあ」〉と老人は大声でいった。外洋に出て子供のことを思い浮かべた最初の場面である。一緒にきたがっていた子供に断ったことを承知の上での叫びである。しかし、老人は、今はただ魚の動きに合わせ、魚を疲れさせることだと考える。野球に強い関心をもっていた老人は、突然今日のヤンキースの試合の結果が気になる。が、〈彼はすぐ、いまはただ一つのことを考えなければならないんだとおもいなお〉す。要するに、難しい仕事に携わっている時の心の散漫が如何に危険であるかを再認識したのである。

〈突然、かれは声を張りあげていった。「あの子がいたらなあ。手伝ってもらえるし、見張りもしてもらえるんだが」〉。子供のことを思い浮かべるのは、二度目である。

〈年をとってひとりでいるのは良くない。かれはつくづくそう思った〉。

年を取り、動きのにぶくなった老人には、これまでに体験したことのない大魚との戦いの、いかに難しいかということはよくわかっている。子供の申し出を断った以上、傍には誰もいない。結局一人で戦わねばならなくなった老人は、体力を維持することの必要性を考え、食べ物を食べておくことを自らに促す。

かつて一対のかじきのうちの、めすのかじきを子供の手を借りて舟に引きずり揚げたことを思い出し、〈「あの子がいたらなあ」老人は大声でどなる。〉三度目である。老人は丸味をおびたへさきの舟板に背をゆだね、今引っかかっている大魚をどこまでも追いかけていく思いを強くし、〈いいか、明るくなったら、きっと鮪を食うんだぞ〉とふたたび自らにいい聞かす。そして、どこまで引っ張られても十分だという長さの控えの綱を用意したあと、〈かれは大声

で叫んだ。「あの子がついていてくれたらなあ」〉と。四度目である。

老人は直ぐに魚に向かって、大声でしかしやさしく語りかける。〈「おれは死ぬまで、お前につき合ってやるぞ」〉と。大魚を捕まえるために命を賭ける決意を表明したことばと考えていいだろう。大魚との戦いの、ようやく山を越えようとしている状況を察知したことばである。むろん、大物の魚の釣り師としての誇りの回復の見込みが、老人には見えてきた証とも見ることができよう。

そこで〈老人は「さあ、心を入れかえて、仕事に精をだすんだぞ。鮪を食わなくてはいかん。体力をつけておきたいからな」〉と自らをはげます。

そして又しても、〈「あの子がいればいいんだが、それに塩があればありがたいんだけどな」〉と老人は〈大声で〉いった。五度目である。大魚との戦いになお気使いをしながらも、老人には心にいくらか余裕が出てきたことがわかる。むろん〈塩〉とは、調味料としての塩のことである。

〈あの子がいれば揉みほぐしてくれるんだが〉と老人は思う。六度目である。不安定な舟の上で働く者には、要らぬところで力が要り、長い緊張の必要な時もある。疲れの出るのは、極く自然である。〈綱は徐々に浮き上がって〉きて、とうとう魚は全身を見せた。舟よりも、二フィート（大森注・六十一センチ）長いことがわかる。

魚はだいぶ弱ったように見えたが、まだ一晩一緒に付き合わねばならぬと、老人は覚悟する。そのために、体力を維持することの必要性を考え、食べ物を食べ、睡眠を取ることを考える。しかも、〈もし眠るなら、オールをともに結びつけるなんて危険だぞ〉というほどの用心深さである。

これまでに見てきたことでもわかるように、老人の大魚に対する戦いの様相も徐々に変わってきた。老人がかつて子どもの助けを借りてめすのかじきを舟に引きずり揚げたことを思いだしたころ、すなわち老人が、三度目、四度目の叫び声をあげたころからである。そのころから確かに、守りの戦いから攻めの戦いに変わっている。

綱で手に傷を負った老人は、〈あの子がいれば巻綱をぬらしてくれるんだがな〉とかこつ。七度目である。しかし老人は一人で始末するほかに手はない。綱を引く魚の力がだんだん落ちてきたことがわかる。

外洋に出て三日目の朝、魚が東に向かっていることに気付き、〈疲れてきた証拠だ、潮と一緒に流れている。もうじきぐるぐる回りはじめるだろう。おたがい、仕事はそれからだ。〉と老人は思う。綱でいろいろとあやつりながら魚に対処していた老人には、〈二時間後には疲労が骨の髄までしみわたった〉。そうして、〈二度気を失いかけた〉。〈「こんなざまで魚と心中してたまるものか」〉と心をふるいたたせ、冷静に、かつ積極的に老人は魚に対処していった。老人はそのあとにも、何度か気を失いかけたことはあったが、ついに彼は魚の横っ腹に〈全身の力をこめて〉銛を突きたてた。急に老人には疲れが出て〈気を失いかけ〉、一時的に〈眼がかすんでよくみえな〉くなってしまう。〈やっと眼が見えはじめ〉、〈ふと見ると、魚が海面に銀色の腹をだして仰向けに浮かんでいた〉。

はじめまして

麻酔科部長　西良雅夫

はじめまして、麻酔科の西良雅夫と申します。出生地は、奈良県桜井市にある牡丹の花で有名な長谷寺（はせでら）の近辺です。高校まで奈良県で過ごして、その後大阪市立大学に入学して以来12年間ほど大阪で生活をしておりました。そのためか、関西弁が抜けません。自分では標準語を話しているつもりなのですが、ご容赦ください。

出身大学の麻酔･集中治療医学教室に入局させていただいて、臨床研修医を大学病院、大阪労災病院、大阪厚生年金病院で過ごしました。臨床研修医時代での思い出は大阪労災病院のICU当直というものがあって、1ヶ月に14泊当直をしていたことです。労働福祉事業団設立の労災病院でこのような勤務をする自分に社会の厳しさというものを否が応にも分からせていただきました。

3年目から財団法人住友病院で新病院の立ち上げを経験し、心臓血管外科手術の麻酔を毎週担当しておりました。また、生体腎移植の手術にも携わり麻酔及び管理方法を策定させていただきました。このように重症例を担当していたおかげで胆力がついたと思っています。

愛知県がんセンター中央病院では、名医に囲まれ、自らの不明を恥じつつ仕事をしておりました。国立がん研究センターに追いつくべく新しい手術治療法が導入されるに従い、麻酔管理も適応しなければならないため、常に最善の手法を考えておりました。外科系の先生方には、自分が考えだした手法を喜んで採用していただき、役に立てて良かったと感じております。一方、麻酔科部長が人的管理に苦しんでおられ、その姿を垣間見て学ぶものがありました。

自分が当院に赴任したことで麻酔科医が3人となりました。これにより、予定手術と緊急手術を受ける枠が広がりました。必要な手術を必要な時に出来るよう調整していきたいと考えております。また、麻酔だけでなく、自分で対応出来ることを増やして、皆様に役立ちたいと思っております。まずは、赴任して間もないので、不慣れな点が多数見受けられると思いますが、皆様ご指導ご鞭撻宜しくお願いします。

第22回　「健康を守る教室」

テ　ー　マ：『痔の悩み～恥ずかしがらずに受診しよう～』
＆セラバンドを使用した体操
日　　時：平成25年2月23日　土曜日
13:00～14:00(受付12:30～)
場　　所：新館1F
講　　師：消化器外科 小林奈々医師　　理学療法士 磯村
参　加　料：無料
お問い合わせ：受付窓口もしくは医療連携室 Tel 0587-95-0015

痔にはいぼ痔、切れ痔、痔ろうの3つのタイプがあり、それぞれのタイプによって症状や治療法が異なります。しかし原因は共通しており、どれも主に便秘や下痢といった便通の異常をきっかけに引き起こされます。便秘や下痢はふだんの生活習慣によって起こることが多いので、痔も生活習慣病の一つと言われています。でも痔だと思っていたら違う病気だった!という場合もあるので、恥ずかしがらす、受診をすることも必要です。今回はそんな痔について消化器外科の小林奈々医師より詳しくご案内していきます。皆さまお誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。
ご希望の方はお申し出下さい。　　黄色（弱）400円　緑色（中）460円　青色（強）520円

復興支援キャンペーン

気仙椿
ドクターズハンドクリーム

女性医師の会が監修した東北支援のハンドクリームです。
東日本大震災で、当時東北地方で唯一、椿油を搾っていた陸前高田市の「石川製油所」が被災。津波でご子息を亡くしたことから代表の石川秀一さんは廃業を余儀なくされました。そこで、同市の障害者支援施設が製油技術の継承を提案し、石川さんから技術指導を受けることになりました。このハンドクリームは福祉施設に通う人たちが手作業で行い、石川さんの指導のもと搾油した純国産の椿油を使用しています。

震災で被災し、仕事がなくなってしまった人たちに地元での新しい産業を作り、東北被災地の未来をつくる企画です。このハンドクリームを継続して使うことは長く続けられる被災地復興支援のひとつになります。

純国産椿油を使用し、保湿効果の高いはちみつ、クインスシードエキスを配合しました。

【価格】
1890円（内容量80ｇ）

【販売場所】
本館受付・売店・新館受付・リハビリ受付・御嶽・太郎と花子売店・さくら荘

※現在初回生産分が完売となり、追加生産を行っています。その為、追加販売時期は未定ですが、入荷し次第お知らせいたします。

お気軽に職員までお問い合わせください。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

診療科表

平成25年2月1日現在

	午前 9:00～12:00													午後 5:00～7:30												
	消化器病 外傷 センター	ハートセンター 循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 脊髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	ストレス 外来	こども女性疾患センター こども	こども女性疾患センター 女性疾患	ペイン クリニック	皮膚疾患 センター	耳・鼻・喉疾患 センター	腎・尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター	消化器病 外傷 センター	ハートセンター 循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 脊髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	ストレス 外来	こども女性疾患センター こども	こども女性疾患センター 女性疾患	ペイン クリニック	皮膚疾患 センター	耳・鼻・喉疾患 センター	腎・尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター
月	○	○	○	○			○	○ 受付 11:45迄		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○ 17:30～19:30	○	
火	○	○	○	○ ※2						○	○	○	○	○	○	○	○	○ 18:00～19:30		○	○ 18:30～19:30			○ 17:30～19:30		
水	○	○	○	○	○	○		○ 9:00～11:45		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○ 17:30～19:30		
木	○	○	○	○ ※2	○		○	○ 受付 11:30迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○ 18:30～19:30			○		○
金	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○ 18:00～19:30	○ 18:00～19:30		○			○ 17:30～	○ 17:30～19:30	○	○
土	○	○	○ ※1	○	○					○	○	○	○													
日	○	○	○ ※1								○															

※1 休診日あり　※2 祝日診療あり(9:00～11:00)

- 診療時間は、診察科目により異なります
  ご不明な点がある場合は、職員にご確認ください
- 診療日が変更になる場合があります ご了承ください

機関紙 human ヒューマン
No.250

発行 医療法人 医仁会
さくら総合病院
丹羽郡大口町新宮1-129

電話 0587(95)6711(代)
発行年月日 2013年2月1日
発行部数 350部